

# 平成27年度「研究大学強化促進事業」フォローアップ 進捗状況概要 岡山大学

## 目的

岡山大学は強みの研究分野である「物理学」及び「基礎生命科学」分野の研究拠点を軸に、研究特区「グローバル最先端異分野融合研究機構」(G研究機構)を新設し、この研究特区を中心に、研究に専念できる環境整備、研究支援人材の増強配置、URAの強化、国際共同研究の推進及び産業界との連携強化を図り、研究力強化を行う。さらに、新たな強みとなる研究領域の発掘・育成を行い、大学全体の研究力強化につなげる。本事業を通して、当該分野で「世界で研究の量(論文数)・質(被引用数)ともに存在感を示す「リサーチ・ユニバーシティ(研究大学):岡山大学」を確立する。

## これまでの実績・進捗状況

- 研究特区「グローバル最先端異分野融合研究機構」(G研究機構)を設置: 3拠点研究コア「宇宙極限量子研究コア」、「エネルギー環境新素材研究コア」、「生体光エネルギー変換研究コア」及びSサテライト拠点研究コア「酸化鉄研究コア」、「OMIC研究コア」、「埋蔵文化財研究コア」、「腸管感染症研究コア」、「地球物質科学研究コア」を選出。拠点研究コアを重点支援し、研究活動を強力に加速化させている。その結果、強み研究分野の更なる発展と同時に大学全体の研究論文の量と質が明らかに改善している。
- 高度研究系マネジメント人材「岡山大学URA」の増強: 全世界から秀逸な人材を採用し、「研究戦略立案・運用」、「アカデミア及びビジネス界における国際連携強化」、「研究広報強化」など多岐にわたるミッションをマネジメント。学長特命(研究担当)として、研究担当理事・副学長と共に学長を強力に補佐し、執行部の研究系ブレーンとして直接的に「リサーチ・ユニバーシティ(研究大学):岡山大学」を運営する高度研究系マネジメント人材組織を編成。博士号を有する8名(うち外国人2名、女性3名)を、その任に当てた。
- 研究支援力強化: 学内共同実験施設の環境整備及び専門人材を配置増強し、学内研究環境を向上させた。
- 研究推進産学官連携機構の強化: 研究推進及び戦略的知的財産マネジメントを行う専門人材を配置増強し、研究推進、産学連携、知的財産、社会連携における支援力を強化した。
- 研究広報活動の強化: URAや新たに任命した「研究広報アドバイザー」による戦略的国内外への研究情報発信を強化した(e-Bulletin、OU-MRU他)。本事業で組織された「大学研究力強化ネットワーク」における国際情報発信タスクフォース、大学ランキング指標タスクフォースの幹事校、国際連携タスクフォースの参加校、として他大学・研究機関と連携とした戦略的広報を強力に推進した(岡山大学URA HP: <http://ura.okayama-u.ac.jp/>)。



## 今後の課題と展望

- 研究特区「G研究機構」に設置した3拠点研究コアを、全学的組織として「異分野基礎科学研究所」に進化・発展させる。【世界で唯一無二の拠点】
- サテライト拠点研究コアなどの次期研究コアを戦略的かつ、強力に育成し、拠点研究コアへと発展させる。【次世代研究の育成】
- 研究支援組織である自然生命科学支援センターや研究推進産学官連携機構を更に戦略的に強化する。【研究力駆動の増強】
- わが国のURA制度を先導すべく「岡山大学URA」の質を更に向上させると共に、イノベーション創出に寄与する研究シーズの戦略的プロモートや後世に継承する学術的貯蔵・保管を、学長の強力なリーダーシップの下、URAが実施する。【先導的URA制度の確立】
- 「リサーチ・ユニバーシティ(研究大学):岡山大学」を強力的かつ戦略的に支援できる研究系事務組織に改革する。【研究系事務改革の断行】

## フォローアップ結果

評点区分: おおむね順調に進んでいる

### 全体を通じた所見

- 研究特区としての「グローバル最先端異分野融合研究機構」における研究力強化の取組が、戦略的分野以外をも牽引し、大学全体の研究成果の量的・質的改善が進みつつある。URAの「企画業務型裁量労働制」の採用など、先進的取組も見られ、本事業における取組が、成果を上げつつあるといえ、おおむね順調に進展していることが確認された。
- 一方、当初構想から予算上の課題により、事業規模を縮小したため、大学全体にURAによるサポートが行き届いていない部分があると考えられる。論文発表等で進捗が見られるが、限られた人材のより効果的な活用が望まれる。

### 特に優れた点

- 強みとされる3分野とともに、次世代の重点領域として育つ可能性のある分野をサテライト拠点研究コアとして選出し、並行して強化を進める体制は、優れた取組である。
- 教員の人事評価において、先進的かつ国際水準で教育・研究を行う教員を積極的に評価する体制を整備したことは、教員評価において先陣を切った岡山大学に相応しい先進的取組である。

### 期待する点

- URA配置の効果は認められるため、より特徴を出せる形で、自主財源による配置なども考慮しつつ、特色ある分野の強化を期待したい。また、URAのキャリアパスについて、検討中の部分があることから、有能な人材の確保の手段としても、早急な明確化を期待したい。
- 研究力強化の観点から、留学生を含む大学院学生数が減少傾向にあること、テニュアトラック教員の全学への普及とその採用絶対数の増加、外国人教員の一層の増員も含めて、人材の質と量の更なる強化を期待したい。